

令和2年度の目玉研究等 畜産研究所

◆雌雄産み分け技術を組み入れた一卵性双子を生産する研究

【背景】

- ・優秀な種雄牛を作出するためには、約6年もの検定期間がかかります。
- ・一卵性双子を用いた双子検定(双子の1頭を種雄候補として残し、もう1頭を肥育して肉質を調査)を利用することにより、種雄牛の検定期間が3年半へ短縮可能となり、優良種雄牛の早期作出が期待できます。
- ・確実に雄双子を生産することが可能となると、種雄牛作出がさらに効率的に進みます。

【目的】

- ・種雄牛開発を効率的に進めるため、これまでの一卵性双子生産技術に雌雄産み分け技術を組み入れ、安定的に雄双子を生産する技術の開発を行います。
- ・着床前の胚に由来する栄養膜小胞を利用し、雄と判別された分離胚の受胎率高技術の開発を行います。

【R2目標】

- ・雌雄産み分け技術により雄と判別された分離胚により、一卵性双子の受胎を目指します。

【今後】

- ・種雄候補牛となる雄の一卵性双子を増産し、双子検定を実用化させることにより、優良な種雄牛の作出をスピード化していきます。

1 性判別済み2分離胚作製方法



2 栄養膜小胞の作製方法



お問い合わせ

畜産研究所 繁殖技術肉牛部部 (電話0175-64-2233)